

“困った”の解決策がいっぱい！ 「歯科衛生過程」の入門書



よくわかる 歯科衛生過程

全国歯科衛生士教育協議会 ほか編

B5判/136頁 定価：3,200円＋税
医歯薬出版（2015年6月）

東京都文京区・講道館ビル歯科・口腔外科
評・河野章江（歯科衛生士）



超高齢社会のなかで、国民の健康に対するニーズはさまざまに変化しており、より安全・安心でかつ高度な医療の提供が求められています。そして、医療のあり方の変化に対応すべく、歯科衛生士のフィールドも多方面に拡大しています。3年制、4年制の歯科衛生士教育が定着し、平成27年には歯科衛生士法が改正され、多職種連携のもと、歯科専門職として医療の提供に努めることが定められました。今後、さらに専門性を高めた歯科衛生士の活躍が期待されています。

日常臨床で、「TBIしておいて」「スケーリングしておいて」などと歯科医師から指示されたことだけをやるのは簡単です。でも、それでは口腔の専門職として情けないですよ。患者さんに適切なケアを行うためには、歯科衛生士の視点からその方のニーズを明らかにして、問題の解決法を考えることが必要とされます。そこ

で用いられる論理的思考ツールが「歯科衛生過程」なのです。

本書で解説される“歯科衛生過程”に基づいた歯科衛生士の活動とは、さまざまな角度からの情報収集（アセスメント）に始まり、得られた情報を統合することで問題を明確にし（歯科衛生診断）、それを解決するために目標を設定（計画立案）、実施（介入）していきます。実施しても問題が解決しなければ要因を分析し（評価）、また最初に戻ります。このプロセスのなかで大切なのは、臨床家としてみずから考えて対応することです。たとえば、あなたはどの患者さんに対しても画一的なブラッシング指導をしていますか？ また、セルフケアで歯肉縁上のプラークコントロールができない人にスケーリングを数カ月ごとに繰り返しても、何の意味もありませんね？ さまざまな局面で、一人ひとり違う患者さんのニーズに個別性をもって対応できるようになることは、私たち歯科衛生士が目指すところでしょう。

本書は、臨床で働く歯科衛生士が現場で適切に歯科衛生過程を実践するためのテキストとして、教育に関してエキスパートである歯科衛生士の方々が執筆されたものです。臨床でよくある事例をあげながら、場面ごとの介入方法が図解でわかりやすく書かれています。また、登場する主人公は新人歯科衛生士という設定ですので、臨床経験の浅い歯科衛生士や、「歯科衛生過程」に馴染みのない世代の歯科衛生士にとっても参考になると思います。

先輩歯科衛生士のいない職場で、誰にも相談できずに一人で悩んでいる人もいるでしょう。“どのように患者さんに介入すれば、歯科保健指導が受け入れてもらえるのだろうか？”——本書は、そんな日々の臨床で悩める歯科衛生士に必ずヒントをくれる1冊です。きっとやりがいのある毎日が変わります。ぜひご一読を！